

■「司令塔、夏に鍛える－1部6校のQBたち」⑥

キープでTDを

渡邊 陸（室蘭工業大、4年）

2年ぶりに1部復帰を果たした室蘭工業大。新型コロナウイルスに翻弄された3年分の鬱憤を晴らす鍵を握るのがQB渡邊陸（4年）だ。8月15日、室蘭市水元町の室蘭工業大グラウンドで行われた試験休み明けのブラックパンサーズの練習でも、大学院入試の手続きのために終了間際の合流になったが、Xリーグ・オービックのクリニックから持ち帰った体力アップドリルに加わり、練習後はキャッチボールでパスフォームをチェックした。「1部で5試合を戦う。チームの柱なので、けがをしないこと。そのために、は受け身のプレーを絶対しない」と決意を口にした。

兵庫・尼崎小田高では野球部の二塁手と中堅手を務めた。大学2年の時に、同学年のRB穴戸連旺に「投げるポジションがあり、活躍できる」と誘われてアメフト部に入った。4年生QBの控えて早速試合にも出場したが、室蘭工業大は新型コロナウイルスの影響でトーナメント初戦を棄権、5、6位を決める順位戦で釧路公立大に敗れ、入れ替え戦も東京農業大に敗れて、無念の2部降格となった。先発QBとなった昨年は2部で経験を積んだが、右ひざの靭帯を傷め、東京農業大に雪辱を果たした1、2部入れ替え戦はサイドラインから後輩QBのプレーを見守った。

不完全燃焼だった2年間から、巻き返しを期す今季。去年の2部優秀賞のエースRB富樫司（3年）を生かすオプション攻撃に磨きをかける。「富樫か自分か、どちらが走るのか。相手守備をかき回したい」ともくろむ。そして「自分が走る時はスライディングせず、1ヤードでも前にボールを進めたい。まだTDを取ったことがないのでエンドゾーンまで駆け込みたい」と力を込める。パスも自信を深めた。7月の釧路公立大とのオープン戦で、惜敗はしたが25ヤード弾を決めて相手ゴール前に迫り、RB富樫のTDランに結びつけた。「室工はラン主体なので、急にロングパスを投げると効果がある。40ヤードは投げられる」と自信たっぷりに宣言した。

